



営農NEWS



麦栽培における播種までの作業について

茨城県の麦栽培は、水田転作畑における作付面積が多く、次いで畑で栽培されています。

麦種では全体の 6 割弱が小麦、ついで六条大麦、二条大麦の順となっています。

品種は、小麦ではコムギ縞萎縮病抵抗性を持ち、倒伏しにくく、日本めん用として汎用性の高い「さとのそら」が主に栽培され、また、六条大麦では麦茶用の高品質品種「カシマムギ」に加えて、オオムギ縞萎縮病に強く、穂首折損しにくい高品質の「カシマゴール」が作付面積を伸ばしています。

このような中で、**高品質な麦栽培の大きな課題の一つとして、作付圃場における排水、**

湿害対策が必須の作業となっています。

また、種子伝染性病害を防除する種子消毒や適期播種も、安定生産のために必要な作業となります。

圃場の**湿害対策や土づくり、適期播種、適正な肥培管理**を徹底し、高品質で安定した麦生産を推進してください。

1. 圃場の準備

- 1) 圃場の排水性を図るためには、本暗渠を適正に管理して排水機能を維持することが大切です。また、本暗渠と直交するように補助暗渠を施工したり、サブソイラ等で心土を破碎して透水性を高めましょう。
- 2) 地表水を排水するために、圃場周囲には額縁状の排水路（額縁明渠）を施工します。さらに、圃場内においても一定間隔で小明渠を作成し、周囲明渠に連結して排水性を高めます。
- 3) 耕土の酸度は pH(KCL) 5.5~6.0 になるように、苦土石灰または消石灰を施用して矯正します。
- 4) 土作りのため、10a あたり、堆肥を 1t または稲わら 500 kg 程度を土壌混入します。また、有効態リン酸で乾土 100g あたり 10mg となるようリン酸資材を施用します。
- 5) 深耕 15cm 前後のロータリー耕を 2 回かけるか、ロータリー耕後にドライブハロー等で碎土を行います。なお、碎土は 2cm 以内の土塊が 70% 以上になるよう丁寧に行いましょう。

2. 種子消毒

麦で種子伝染する重要な病害として「なまぐさ黒穂病」、「裸黒穂病」、「斑葉病」、「条斑病」などがあります。これらが発病すると生育不良や品質の低下、大きな減収を招くばかりでなく、販売も困難となる場合があります。播種を行う前に、種子の消毒しておく必要があります。

【種子消毒の方法】

- 1) 従来から温湯を利用した熱による消毒法として、①風呂浸漬法、②冷水温湯浸法などがあります（具体的処理法は省略します）。
- 2) 薬剤を利用した種子消毒法として、下記を参考にしてください。

表 1 麦類の主な種子消毒薬剤と処理法ならびに対象病害（平成 29 年 10 月 26 日現在）

薬 剤 名	処 理 方 法	なまぐさ 黒穂病	裸黒穂病	斑葉病	条斑病
トリフミン水和剤	種子重量の 0.5% 種子粉衣	○	○	○	
ベフラン液剤 25	250~500 倍液に 10~30 分間の種子浸漬			○ (小麦を除く)	
	1,000~2,000 倍液に 10~30 分間の種子浸漬	○			
	乾燥種子 1 kg あたり原液 3~5ml 種子吹き付けまたは塗沫			○ (小麦を除く)	○
ベンレート T コート	乾燥種子重量の 0.5% 種子粉衣	○	○	○	○
ホーマイ水和剤	種子重量の 0.5~1.0% 種子粉衣	○		○	

3. 適期播種の徹底

小麦「さとのそら」は 11 月上~中旬、六条大麦「カシマムギ」や「カシマゴール」は 11 月上旬が播種適期です。播種が遅れると十分な生育が確保できず、穂数も不足するため、収量、品質が低下します。天候や作業の関係で、やむを得ず播種が遅れる場合でも、11 月中には作業が終わるようにしましょう。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040